

ISSN 2434-9690

東アジア国際 言語研究

創刊号

東アジア国際言語学会
2020年1月

目次

ごあいさつ	鈴木康之 (i)
[特別寄稿]	
文の材料としての単語と連語	鈴木康之 (1)
名詞と使役動詞 (V-(サ)セル) からなる連語	早津恵美子 (5)
[対照研究]	
構造で作る派生空間詞	高橋弥守彦 (25)
日本語の「を格」、「から格」の空間名詞と自動詞との組合せに対応する台閩語の 連語との比較	施 淑恵 (36)
「ノニ」文と中国語“关联词”訳の対照研究	孫 宇雷 (51)
「習得」に関する動詞の語彙的意味の分析——日中の結果複合動詞を中心に——	蘇 丹 (61)
「のだ」文と焦点・強調的“是”字文との対照研究 — 対訳における 意味伝達と形式選択から—	曹 銀閣 (72)
「飛び+V」と“跳/飞+V”についての一考察	陳 雄洪 (82)
拡張意味単位からみた日中同形語の対照研究—「精神」を例として—	梁 鵬飛 (92)
[日本語研究]	
不可能形式による禁止表現	李 楠 (103)
コーパスに基づく類義語の意味分析の研究—「はがれる、むける」などを中心に—	李 響 (111)
日本語の存在文と所在文の置き換えに関する一考察	鄧 超群 (121)
新聞社説における譲歩表現に関する分析—その談話機能を中心に—	単 艾婷 (131)
日本語の「内の関係」連体修飾節のモダリティについての考察	張 静苑 (142)
類型論的にみる日本語の目的語名詞の定性	魯 美玲 (153)
『萬葉集』にみられるオノマトペ—AB型を中心に(その式)—	王 則堯 (164)
[中国語研究]	
中国語の仮定複文における前後節の関係標識について	新田小雨子 (174)
時量詞構文における焦点について	福本陽介 (184)
歴史的に見た離合詞—“请客”“生气”“见面”—	石井宏明 (195)
小説の地の文における“SV了O”文の成立条件	白石裕一 (205)
現代中国語の数量詞について	洪 安瀾 (218)
“把”構文における可能表現についての再考	小路口ゆみ (229)
位置移動の動詞“过”のスキーマについて	蘇 秋韵 (239)
二空間の質的対立から見た“过”の通過義について—「境界プロフィール」と 「場所プロフィール」に着目して—	佐々木俊雄 (250)
清末北京語動詞の実態—張廷彦『支那語動字用法』と『動字分類大全』に基づいて—	許 辰晨 (261)
2019年月例会発表記録	(272)
編集後記	(274)
執筆者一覧	(275)
英文目録	(276)

「ノニ」文と中国語“关联词”訳の対照研究¹⁾

—日中対訳コーパスを用いた考察を中心に—

A contrastive study of "Noni" and Chinese Translations
Based on Data of Japanese- Chinese Translation Corpus

孫 宇雷
Sun Yulei

提要 本文使用『日中対訳コーパス』, 分析了总计 100 例「ノニ」対訳句。考察结果发现, 翻译成中文最多的词是“却”“而”, 其后是“但/但是”“可/可是”“然而”“还/还是”, 此外对“尽管/尽管如此”“只”“倒”“就”“又”“竟”“而且”“并”“便”“偏巧”“怎么能”“不料”“也”等例句也进行了观察。研究结论是, 从「ノニ」的对译可以明确, “反期待”不是「ノニ」成立的必要条件。「ノニ」中的“期待”在日语原文中被包含在前事内, 翻译成中文包含的“期待”会被清楚的表达出来。因此, 被包含的“期待”与相反结果之间的冲突下成立的逆接, 翻译成中文后没有了推论的过程, 这样的情况有很多。

キーワード: 反期待 逆原因 逆接 対訳 食い違い

目次

1. はじめに
2. 先行研究の再検討
3. 実例分析
4. 考察結果
5. おわりに

1. はじめに

「ノニ」が表す基本的な意味は、「話者が事実と期待の食い違いを認識している」ということである。その「食い違い」には、「前件と後件は、通常ならば結びつくことはできないと予測あるいは期待していること」、「そうした予想にもかかわらず前件と後件が両者とも成立し

¹⁾ 本稿は 2019 年度廣東省社会人文科学研究プロジェクト《基于平行语料库函数检定的汉日转折复句翻译共性研究》(GD19CYY21) および 2019 年度中国ポストドック研究プロジェクト《日汉转折句目标语形与源语形翻译共性研究》(2019M653250) の研究成果の一部である。

ていることを確認していること」、「その結果それに対して違和感や驚き・意外感などを感じていること」(c. f. 前田 2009:210) が挙げられる。「ノニ」の条件づけについて、従来の研究では、「ノニ」は主に〈逆原因〉を表すとされてきた。「AするのにB」は「AすればBしない」という一般的に理解される因果関係への判断が、実際には、前件が満たされたにもかかわらず、後件は起こらなかった。そのような状況を描写すると考えることができる。実際、前田(2009:205)によれば、逆接の原因・理由づけとは見られない「ノニ」文も存在している。

渡部(2001:36)は、「ノニ」は〈推論的逆接〉を表し、推論的逆接では、話し手が前提としている事態(つまり、前件から推論されうると話し手が信じている事態)が接続に関しているとしている。丹羽(1998:754)は、「ノニ」を〈反推量希求型〉としている。つまり、「Pが成立し、Pから推論を経てRを話者が推量・希求する状況において、又は、Pを話者が推量・希求する状況において、それに反して、Q(=〜R)が成立する」というような場合では、「ノニ」が使用できる。渡部(2001)、丹羽(1998)の〈事実による推論〉説のほか、前田(2009:203)によれば、「ノニ」文には、前件が希望や予測・予想あるいは意図そのものを表している場合もある。「ノニ」の表出機能について、西原(1985:34)は、〈意外性〉+〈遺憾〉+〈不満〉、或いは〈不本意〉を表すとし、田野村(1989:164)は、「ノニ」は話者の予想または期待に反し、期待が実現しなかったことを表すとしている。今尾(1989)は、「ノニ」が期待に反する事柄に対する話者の気持ち(意外感、遺憾など)を表すものとし、さらに衣畑(2001:19)では、「ノニ」文は、話者個人の経験的側面からの含意と矛盾している違和感、意外感、不満などを表す文とされている。

以上のように、「ノニ」文を観察する研究が多く見られるが、「ノニ」文における逆接の成立を問う研究が少ないようである。孫(2015:199)は、「主観性」の理論モデルを用い、「ノニ」文における逆接の成立を検討したが、本稿は対訳資料から考察し、さらに「ノニ」文の逆接を成す「主観性」を検討する。

2. 先行研究の再検討

前田(2009)は、「ノニ」文の機能を以下のように示している。

表1 「ノニ」文の基本的な機能および例文(前田 2009:205)

種類	例文
逆原因・理由文	努力した <u>ノニ</u> 、成功しなかった。
非並列・対照	お金がある <u>ノニ</u> 、時間はない。
予想外	予め言っておいてくれたらよかった <u>ノニ</u> 、どうして言ってくれなかったの？
不本意が事態が生み出す	スキーに来た <u>ノニ</u> 雪がない。

孫(2015)はさらに詳しく、「ノニ」の特徴を表2のようにまとめている。

表2 「ノニ」文とその特徴（孫 2015:226）

用法		RとTの関係	事実性	文の機能（主観性）	
従属的用法	逆原因・理由	継起的事態 R と T	R、Tとも事実	予想された因果関係の不実現（失望）	
		非継起的事態 R と T	Tが発生した	Tの不合理性を問う（不満・阻止）	
			Tが現状		
	Tが発生しそう				
	不本意な事態が生み出される状況	Rの進行はTの出現によって中止・邪魔される	Tが一種の発見	Tの出現に違和感を示す	
	予想外（期待顕在化）	反期待	予想Rと現実結果Tが対照関係となる	Tが事実	反期待事実への不満
		反事実仮想	予想Rと現実結果Tが対照関係となる		Tの逆を期待する
非並列・対照		継起的対照 R と T	R、Tが継起的に発生する	前件Rのままでもいい	
		非継起的対照 R と T	R、Tとも持続相で現れる	後件Tの状態もRと統一したい	
否定的累加		継起的RとT	R、Tが継起的に発生する	礼儀用法	
非従属的用法	意外感の表出		RとTが短絡的結びつきとなる	Rが事実である	Tは話者の評価そのものとなる
	終助詞的用法		RとTが倒置文関係	先行文が事実である	先行文発生の不合理性を問う
	接続語句	ナノニ	先行する文が発話の論拠となる	先行文は事実か判断となる	後件の不合理性を問う
		ソレナノニ	先行する文からの分析が後件となる		後件の不合理性の評価
トイウノニ		名目と一致しない結果（短絡的結びつき可）	先行文は名目、Tが事実	前後不一致を示す	

※Rは前件、Tは後件を示す。（参照点モデルの名称を援用する）

孫（2015:212）は、「ノニ」文の成立をさまざまな面から考察してきたが、「ノニ」文を譲歩文としての検討はまだ少ないようである。本稿は『日中対訳コーパス』での対訳資料を取り上げ、中国語対訳の“关联词”の角度から、「ノニ」文における譲歩を分析する。

3. 実例分析

本研究は、『日中対訳コーパス』の中で、「ノニ」をキーワードに設定し、日本語→中国語訳のサンプル調査を行った。結果として、図3のデータが明らかにされた。

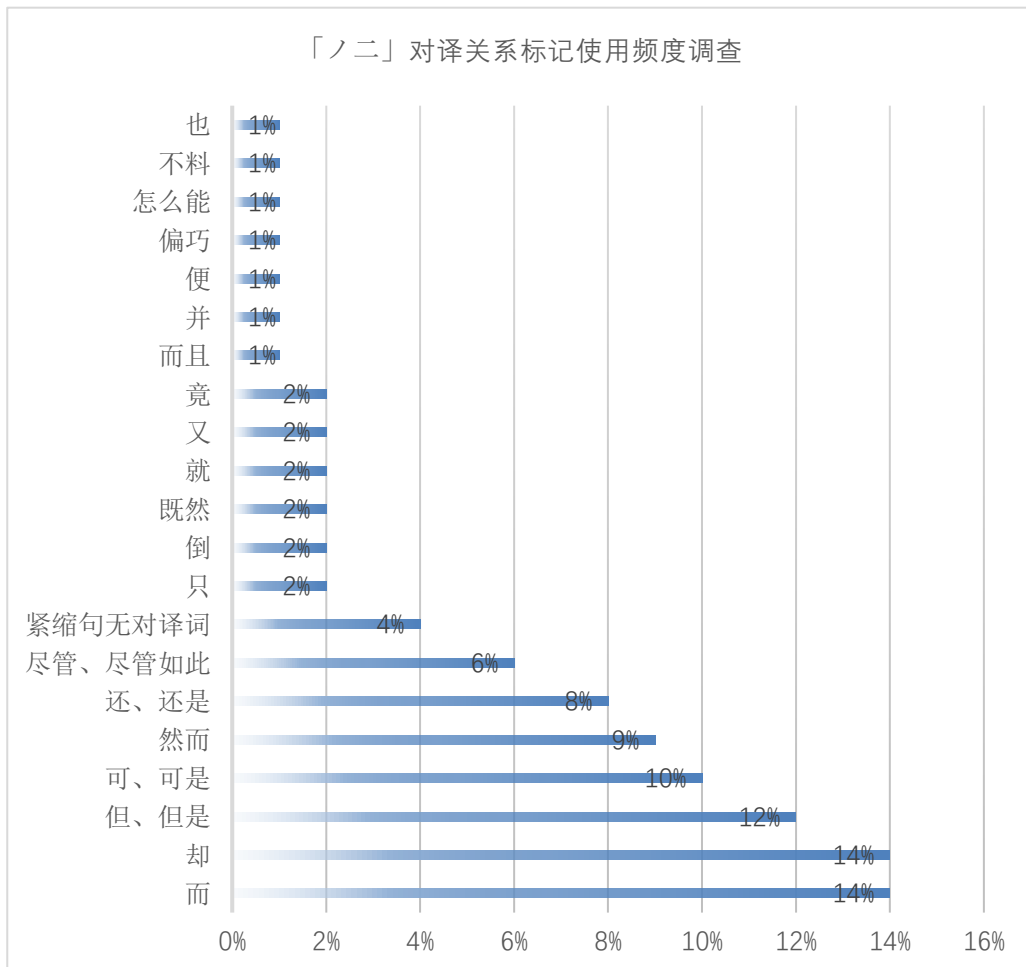


図3 「ノ二」の対訳文に見られる“关联词”の使用回数

図3のように、「ノ二」と対応する中国語訳は、“而”、“却”、“可是”、“还是”、“尽管/尽管如此”、“紧缩句无对译词”（单文形式に近く、対訳する中国語表現がない場合），“只”、“倒”、“既然”、“就”、“又”、“竟”、“并”、“不料”、“然而”、“怎么能”、“但是”などの例が多く観察される。訳文の機能に基づき、本研究は、それぞれ、対比対照、反期待、順接、譲歩、緊縮文と補説に分けて展開しようとする。

3.1 対比対照

図3では、対比対照の対訳が最も多く観察されている。“而”“却”“但是”“倒”“也”などによって前件と後件の状態が対比対照の繋がりとなっている。対比の場合はさらに、並列と非並列に分けられる。

- 1a) それは丑松が帰った翌朝のこと。階下では最早疾に朝飯を済まして了ったのに、未だ丑松は二階から顔を洗いに下りて来なかった。（『破戒』）

1b) 那是丑松回来的第二天早上。楼下的人早就吃过了早饭，而丑松却还没有下楼洗脸。（《破戒》）

2a) 僕はこの頃漸く勘づいたのに、君は中々敏捷だと大にほめた。（『坊ちゃん』）

2b) “是啊，我最近才看出来，你倒挺敏感呀。”他大大表扬我一番。

3a) 川むこうの嵐山には陰鬱な緑がこもっているのに、川のその部分だけは、いきいきとした飛沫の白の一線が延び、水音があたり一面にひびいていた。（『金閣寺』）

3b) 河对面的嵐山此时还是一片翠绿，只有河床中急湍冲冲，象一条横地流动的瀑布，不断地卷起泡沫，一根银线似的飞泄而下，使这一带响声雷动。（《金阁寺》）

1) -3) の前件と後件は、状態、性質などの面で対比対照の繋がりを成している。これは、並列的対比・対照と呼ぶ。具体的には、“而”“倒”を用いて、並列的対比・対照を表している。《实用现代汉语语法》と《现代汉语 800 词》では、“而”と“倒”の意味機能が、以下のように解釈されている。

表3 “而”と“倒”の注釈

対訳表現	《实用现代汉语语法》	《现代汉语 800 词》
而	“而”可用来连接单词、短语、分句或句子，表示他所连接的两个成分之间的并列、转折、承接或者递进等关系。	从古代沿用下来的连词，多用于书面。1. 表示转折。2. 表示互相补充。
倒		副词。1. 表示跟一般情理相反。2. 表示跟事实相反。3. 表示出乎意料。

表3 から見れば、“而”は「逆接」あるいは「補説」との意味機能があり、“倒”は相反する事態や道理を表し、反期待なども表すと記述されている。例1) の「丑松」と例2) の「君」は、ある事態において「階下」の「みんな」と「僕」と相反している。“而”も“倒”も、後件に焦点をおいているので、一般的な並列的対比・対照と比べてみると、話者の主観性が強く伺える。3) は1)、2) と異なり、無標記文と訳されているが、「嵐山には陰鬱な緑がこもっている」と「川のその部分だけ」が、相反する状態となっている。中国語で訳す場合、景色の対比・対照が、接続標記つまり“关联词”で取り立てなくても、その繋がりが自然に生成されている。非並列の例としては、4)、5) があげられる。

4a) 現実の京都とは反対の方角であるのに、私は山あいの朝陽の中から、金閣が朝空へ聳えているのを見た。（『金閣寺』）

4b) 本来和现实的京都方位相反。但是我却从山间的朝晖中，看见了高耸入云的金阁。（《金阁寺》）

5a) 元からさ程強い酒量でないのに、無闇にぐいぐいと呷ったので、一時に酔が発したのであろう。（『布団』）

5b) 他酒量本来就不是那么大，这回又咕嘟咕嘟地使劲灌多了，所以酒性发作了。（《棉

被》)

例4)、5) では、「ノニ」は“但是”と訳されている。《实用现代汉语语法》と《现代汉语 800 词》では、以下のように解釈されている。

表4 “但是”の解釈

対訳表現	《实用现代汉语语法》	《现代汉语 800 词》
但、但是		连词，表示转折。引出同上文相对的意思，或限制、补充上文的意思。

表4から見れば、“但是”は「逆接」と「相反すること」及び「限定・補説」などを表している。例4) では、「本来」のことと、「私」が「見た」ことは対比・対照となっているが、逆原因に近く、非並列的な繋がりを成している。5) は、接続助詞「ノニ」よりも、「ノ」＋「ニ」の機能を果たしていて、中国語訳では“又”と訳されている。並列的対比対照ではなく、「添加」の意を表している。

3.2 反期待

反期待の場合、「ノニ」文は、不本意な事態が生み出されることから、意外感を表すとされ、落胆、疑惑と不解の感情を込めているとも指摘されている。中国語の訳文では、“但是”、“可”などと訳される場合が多い。

6a) 折角準備したのに、出て来た生徒は張合の無いような顔してる。(『破戒』)

6b) 好不容易准备好了，可来的学生都是无精打采的。(《破戒》)

7a) 喜助は心待ちに玉枝がくるのを待っていたけれど、六月が終るのに玉枝はこなかった。

(『越前竹人形』)

7b) 喜助是一心等待着玉枝到来，但是六月底玉枝还没来。(《越前竹偶》)

例6) も例7) も、話者の期待と相反する結果が後件に現れている。「折角準備した」結果、「生徒は張合の無いような顔してる」。話者の期待は「玉枝が来る」ことであるが、事実として、「玉枝は来なかった」。例(6)と例(7)は、それぞれ中国語の“但是”、“可”に訳されている。“但是”の意味機能はすでに3.1で述べているが、“可”の使用は以下のように解釈されている。

表5 “可”の解釈

対訳表現	《实用现代汉语语法》	《现代汉语 800 词》
可、可是	[连]表示转折，前面常常有“虽然”之类表示让步的连词呼应。 [副]真是，实在是	

表5からわかるように、“可”は「逆接」を表し、常に譲歩を表す“连词”と共に起してい

る。例6)も例7)も期待が含意されているが、7)の場合、“可”と言い換えても、意味的にはほぼ同様な働きを果たしている。

7b) 喜助是一心等待着玉枝到来, 可(是)六月底玉枝还没来。(《越前竹偶》)

反期待の場合、後件に詰問文がくる場合もある。

8a) 当人がもとの通りでいいと云うのに延岡下りまで落ちさせるとは一体どう云う了見だろう。(『坊ちゃん』)

8b) 人家既然要保持现状, 为什么非要强迫他调到延冈去呢?(《哥儿》)

9a) 頼みもしないのに、どうして私を人生から隔てようとする?(『金閣寺』)

9b) 我并没有求助于你, 为什么决计把我和人生隔断开来?(《金阁寺》)

6)、7)と異なり、話者の期待が、後件の詰問から、推論できる。事実を叙述するよりも、聞き手への働きも含まれている。中国語の訳文は、“既然……为什么非”“为什么”などの表現が常に現れている。“关联词”とはいえないが、この種類のマーカーとして、疑問表現が常に観察される傾向がある。例10)では、「ノニ」は“不料”と訳される。『中日辞書』(「オンライン中日辞書北辞郎」:www.ctrans.org)では、“不料”は「意外にも、はからずも、思いがけなく」と解釈される。以上のように、反期待の意味ニュアンスが表されている。

10a) 「下品ですの、本当に、わたし。一昔はもっといい性格だっのに、だんだんこんないやな人間になってしまいました」(『あした来る人』)

10b) “就是俗不可耐, 真的。我, 性格原本好着呢, 不料渐渐变成讨人嫌的人了”(《情系明天》)

3.3 順接

「ノニ」文は、順接に訳される場合もある。

11a) 戦争がすんで二年しかたたないのに、青年たちは再び精力の消耗を企てていた。(『金閣寺』)

11b) 战争结束才两年, 青年人便又寻找起各种方式来消耗体力了。(《金阁寺》)

例11)では、「ノニ」は“便”と対応している。『中日辞書』の注釈によれば、“便”は、「もう、早くも」、「まさしく」、「すぐに、まもなく」、「まさしく」、「するや否や」などの意味を有している。例12)では“才”と“便”の共起を用いて、前件から後件への意外的な展開を表している。しかし、例12)のような文では、対比・対照、反期待とは認定されにくく、むしろ中国語では順接に近い表現であるとみなされやすい。

3.4 譲歩

「ノニ」文では、「譲歩」を表し、「テモ」と相当する使い方も観察される。

12a) 夜着の襟の天鷲絨の際立って汚れているのに顔を押し付けて、心のゆくばかりなつかしい女の匂いを嗅いだ。(『布団』)

12b) 尽管棉被的天鹅绒被口特别脏, 他还是把脸贴在那上面, 尽情地闻着那令人依恋的女人味。(《棉被》)

例 12) の「ノニ」は「テモ」と言い換えてもよいが、話者の主観が異なる。「ノニ」を使う場合、話者は後件の行為結果に対して、「認められない」気持ちを表しているが、「テモ」を使う場合、話者は、後件成立の確実性を示している。中国語に訳すと、「尽管……还是」となる。日本語の場合も中国語の場合も、譲歩を表していることがわかった。

3.5 緊縮文

中国語では、緊縮文は一つの特別的な複文の形態である。《实用现代汉语语法》によれば、緊縮文は、単文の形式で複文を表している。この定義の下で、以下のような例が挙げられる。例 13) は、中国語訳文が緊縮文となっているが、14)、15)、16) は日本語自体が緊縮文の形となっている。

13a) 彼はいま降りたばかりなのに、もう自動車の方へ戻ろうとした。(『あした来る人』)

13b) 刚刚下车, 马上又要钻回。(《情系明天》)

14a) 何事も無いのに出て来るような、そんな軽率な男でないと信じておりますだけに、一層甚しく気を揉みました。(『布団』)

14b) 我相信他不是那种没有事也要往外跑的轻率的人, 这就使我更为担心。(《棉被》)

15a) 然し自分がわるくないのにこっちから身を引くのは法螺吹きの新聞屋を益増長させる訳だから、新聞屋を正誤させて、おれが意地にも務めるのが順当だと考えた。(『坊ちゃん』)

15b) 但转念一想, 自己并没有错, 这样辞职离开此地, 反而更助长了报纸造谣撒谎的气焰, 倒不如让报纸更正错误, 我坚持着干下去更合乎道理。(対訳語がない) (《哥儿》)

16a) 「実は先生に御継り申して、誰も知ってるものがないのに出て参りましたのですから、大層失望しましたのですけれど」(『布団』)

16b) “其实, 在东京我们别无熟人, 是一心想依靠老师才来的。现在是大失所望了。”(対訳語がない) (《棉被》)

例 13) の訳文では、“关联词”がなく、同じ動作主の動作を連続であらわす形になり、訳文自体が「連動文」に近く、つまり単文に近い複文であると思われる。例 14) は、“也”を用い、「緊縮文」の形で、逆接を表している。例 15) の「ノニ」は、「テモ」と言い換えられる。一方、「テモ」文にも、緊縮文で表される複文も多く観察される。

例 15) の「ノニ」は“反而”と対応している。『中日辞書』によれば、“反而”は「かえて」「逆に」「反対に」の意味を持っている。例 15) では、「自分が悪くない」から、「身を引く」必要性がないと思われるが、緊縮文でありながらも、逆接を成している。中国語の場合は、一般複文の形で表されている。例 16) の「ノニ」文も緊縮文の形に見えるが、訳さ

れる場合は、例 15) と同じく、一般複文の形に構成される。したがって、「ノニ」文の訳文として、緊縮文が少ない傾向が観察される。

3.6 補説

ここで、前掲例 5) の用例を再度確認しておく、例 5) と同様に、「ノニ」を「ノ」＋「ニ」の形で意味機能を果たす場合、「補説」「添加」と訳される場合も多く観察されている。

17a) 毎月、生活費の一部を補助しているのに、まだその上いざこざの言い分を聞かされるのはやりきれないことである。(『あした来る人』)

17b) 毎月不仅要补贴一部分生活费，还要听取口角的来龙去脉，实在叫人难以忍受。(《情系明天》)

例 5) と異なり、前件と後件は対比・対照の関係ではなく、A+B の意味しか持っていない。中国語では“不仅”と訳されている。『中日辞書』によれば、“不仅”は「単に…であるだけでなく」「…のみならず」と訳されるが、「補説」「添加」の意味機能を果たしているということがわかった。

4. 考察の結果

本稿の考察結果は、次の表のように纏められる。

表 6 「ノニ」文と対応する訳文の用法・分類

用法	分類	訳文表現	例
対比対照	並列	却, 但是, 只, 也	1) 2) 3)
	非並列	而, 倒, 又	4) 5)
反期待	叙述	可, 还	6) 7)
	詰問	不料	8) 9)
	非“关联词”	既然, 怎么能, 并	10)
順接		然而, 便, 而且	11)
譲歩		尽管	12)
緊縮文	継起	无	13) 14) 15) 16)
補説	強調	不仅... 还	17)

表 6 のように、「ノニ」文の訳文は、用法の方から、六つの種類に分けられる。もっとも多く対応しているのは対比・対照及び反期待である。対比・対照の中には、並列・非並列用法が挙げられる。反期待用法はまた叙述と詰問、非“关联词”を用いる場合がある。さらに、順接や譲歩、また、緊縮文と補説がある。元の日本語文と異なり、中国語の訳文では、対比・対照>反期待>順接>譲歩>緊縮文>補説の用例数の順に出現傾向の実態が明らかにされた。

5. おわりに

本研究は、「ノニ」文と中国語“关联词”訳との対照研究を行い、『日中対訳コーパス』を用いて考察を展開した。結論として、「ノニ」文と異なり、訳文は対比・対照>反期待>順接>譲歩>緊縮文>補説に翻訳する傾向が見られる。したがって、中国語の訳文では、「反期待」がもっとも多く用いられるわけではなく、「対比・対照」が優位に来ていることがわかった。今後は考察を拡大し、「ナガラ」「ツツ」などの逆接表現とその訳文との対照研究を試みたい。

言語資料

『日中対訳コーパス』 ver.1.0 北京日本学研究中心：北京,2003

参考文献

- [1] 刘月华等 (2001) 《实用现代汉语语法》 商务印书馆
- [2] 吕叔湘 (1980) 《现代汉语八百词》 商务印书馆
- [3] 孙宇雷 (2015) 《日语逆接句中接续机能辞的体系化研究》 新华出版社
- [4] 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』 くろしお出版
- [5] 衣畑智秀 (2001) 「いわゆる『逆接』を表すノニについて—語用論的意味の語彙化—」 『待兼山論叢・文学篇』 35, 大阪大学文学部. pp19-34.
- [6] 今尾ゆきこ (1993) 「『ノニ』の機能」 『名古屋大学人文科学研究』 22, 名古屋大学大学院文学研究科. pp75 - 84.
- [7] 渡部学 (2001) 「接続助詞の語彙的な意味と文法的な意味—クセにとノニの記述と分析を巡って—」 『現代日本語研究』 12, 国立国語研究所. pp112-133.
- [8] 田野村忠温 (1989) 「不適条件表現に関する覚書—現代日本語の二類文法現象をめぐって—」 『奈良大学紀要』 17, 奈良大学. pp164-176.
- [9] 孫宇雷 (2013) 「逆接条件文における主観性について—『ノニ』をめぐって—」 『外国語学研究』 14, 大. 東文化大学外国語学研究科. pp203-209.
- [10] 丹羽哲也 (1998) 「逆接を表す接続助詞の諸相」 『人文研究』 50 大阪市立大学文学部. pp743-777.
- [11] 西原鈴子 (1985) 「逆接表現における三つのパターン」 『日本語教育』 56, 日本語教育学会. pp28-39.